



「痔は恥ずかしくない病気です」

TOPICS

— 日帰り治療と「腸活」で、もっと快適に —



「排便時に出血がある」「肛門に違和感がある」「痛みやしこりが引かない」——
そんな症状、ありませんか？

それは“痔”のサインかもしれません。痔は決して珍しい病気ではなく、日本人の2人に1人が一生に一度は経験するといわれています。にもかかわらず、「恥ずかしい」「受診しにくい」と感じてしまい、我慢している方が多いのが現実です。

今回、“痔”と“痔と密接に関係のある腸活”について、今月と来月の2回に分けてご説明いたします。

痔には主に3つのタイプがあります。

まず「痔核（いぼ痔）」は、肛門周囲の血流が悪くなり、静脈が腫れてできる病気です。出血が主な症状で、進行すると脱出（肛門の外に出る）を起こすこともあります。

次に「裂肛（切れ痔）」は、硬い便などで肛門の皮膚が切れてしまうもので、強い痛みや出血を伴います。

最後に「痔瘻（あな痔）」は、肛門内の小さな穴から感染が広がり、膿の通り道（瘻管）ができる状態で、自然には治らず手術が必要です。

では、なぜこうした肛門疾患が起こるのでしょうか？

原因はさまざまですが、便秘や下痢、排便時の強いいきみ、長時間の座位、妊娠・出産、過度な飲酒、刺激物の摂りすぎなど、生活習慣や血流の滞りが大きく関係しています。肛門の周囲はデリケートで血管が豊富なため、ちょっとした負担の積み重ねで症状が出やすいのです。

このうち痔核に対しては、「ALTA（アルタ）療法」と呼ばれる注射による硬化療法が近年広く行われるようになりました。これは、ジオン注という薬剤を痔核に直接注射し、腫れた静脈を縮小・硬化させる方法です。メスを使わず、入院の必要がなく、日帰りで受けられるのが特徴です。

痛みが少なく、回復も早いため、忙しい現代人にとって大きな利点があります。多くの方が治療当日に帰宅し、数日で普段の生活に戻っています。

ただし、ALTA療法はすべての痔核に万能というわけではありません。外痔核や重度の脱出を伴うケースでは効果が限られ、再発率も手術と比べてやや高い（5～10％程度の差）といわれています。根治性を重視する方には、従来の結紮切除術（手術）が向いている場合もあります。

大切なのは、「症状が軽いうちに相談すること」です。早期に受診すれば、痛みや出血の少ない方法を選択でき、生活の質（QOL）も格段に改善します。

次月は腸活についてご説明いたします。



総合診療科 佐口 武史



とうめい厚木クリニック

〒243-0034 厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950